

渡良瀬遊水地ヨシ焼き再開検討協議会からのお知らせ

－渡良瀬遊水地ヨシ焼きの再開を判断しました－

- 渡良瀬遊水地ヨシ焼き再開検討協議会においては、ヨシ及び下草の放射性物質分析を行うとともに、その結果を基に専門家に相談したところ、ヨシ焼きに伴う放射能による外部被ばく、内部被ばくの影響は十分小さいとの専門家見解(下記)を得ました。
- これを踏まえ、同協議会においては、灰が極力飛散しないようにヨシ焼きのエリアを必要最小限に限定し、火入れは時間差を設けるなどの工夫を行いつつ今年のヨシ焼きを再開する判断をいたしました。

放射線量等の測定結果とそれに対する
埼玉大学大学院理工学研究科 井上教授、永澤教授からの専門家見解

①渡良瀬遊水地内の空間放射線量率

地上5cm : 0.06~0.16 μ Sv/h 平均値0.10 μ Sv/h

地上1m : 0.05~0.15 μ Sv/h 平均値0.09 μ Sv/h

(平成24年12月27日、28日、平成25年1月16日、17日 62箇所測定)

●これは、周辺地域の空間放射線量率と同程度です。

②ヨシ及び下草(乾燥後)に含まれる放射性セシウム濃度

89~258 Bq/kg (5試料) 平均値139 Bq/kg

(平成25年1月16日採取)

(空間放射線量率の高かった箇所から試料採取した結果です)

●この放射性セシウム濃度から計算される外部被ばく量は、24 μ Sv/年となり、自然放射線量である約2.4mSv/年(2,400 μ Sv/年)に比べ十分小さく安全上問題ありません。

③ヨシ及び下草(焼却灰)に含まれる放射性セシウム濃度

550~930 Bq/kg (5試料) 平均値754 Bq/kg

(平成25年1月16日採取)

(空間放射線量率の高かった箇所から試料採取した結果です)

●焼却作業中の灰を吸い込んだ場合の内部被ばく量については、1時間の作業で2.8 μ Svと推定され、自然放射線による年間被ばく量の1/1,000程度と十分小さく、安全上問題ありません。

～渡良瀬遊水地のヨシ焼きについて～

日本最大級のヨシ原を持つ渡良瀬遊水地は、絶滅危惧種を含む多くの貴重な植物が確認され、自然を愛する人たちとの共生で生態系が保たれています。

渡良瀬遊水地のヨシ焼きは平成22年まで毎年3月下旬に行ってきましたが、平成23年、24年は、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響で中止したところでは、

この影響によりヨシの生育状況が不良となっているほか、渡良瀬遊水地でしか見られない稀少植物についても、影響がでています。

一本チラシに関する問い合わせー

お問い合わせは、2月中に下記まで連絡をお願いいたします。

<<渡良瀬遊水地ヨシ焼き再開検討協議会>>

利根川上流河川事務所(地域連携課)	TEL: 0480-52-3959	Mail: infotonejo@ktr.mlit.go.jp
古河市役所総和庁舎(企画課)	TEL: 0280-92-3111	Mail: kikaku@city.ibaraki-koga.lg.jp
栃木市役所(総合政策課)	TEL: 0282-21-2402	Mail: kikaku01@city.tochigi.lg.jp
小山市役所(企画政策課)	TEL: 0285-22-9354	Mail: d-kikaku@city.oyama.tochigi.jp
野木町役場(政策課)	TEL: 0280-57-4101	Mail: seisaku@town.nogi.lg.jp
板倉町役場(企画財政課)	TEL: 0276-82-1111	Mail: k-kikaku@town.itakura.gunma.jp
加須市北川辺総合支所(環境経済課)	TEL: 0280-61-1205	Mail: kitawabe-kankyo@city.kazo.lg.jp
関東地方環境事務所(野生生物課)	TEL: 048-600-0817	Mail: REO-KANTO@env.go.jp